



2020(R2)年度

認定特定非営利活動法人コミュニティリーダー ひゅーる ぽん

事業報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

1.運営に関わる事業

=その他、本法人の目的を達成するために必要な事業
【事業費：37,800円】

今年度はコロナウイルス感染症拡大防止の観点から、これまで通りのスタイルでの事業運営には難しさがありました。新しい生活様式に沿いながら、法人として運営のあり方を見直したり、新しいやり方を導入したりと、知恵を出し合い試行錯誤した一年でした。その中で、オンラインでの会議開催、在宅勤務やコアタイム勤務制度の導入などを行い、私たちのこれまでの働き方をみつめ直す機会にもなりました。財政面では、活動形態変更により収入が予算を大きく下回り、補助金依存の運営の課題を再認識することになりました。

また、コロナ禍において直接的な人の交流が制限された一年だったからこそ、人と人がつながり合うことの大切さも改めて強く感じた一年でした。今年度の経験から得たことを力に変えながら、私たちが大切にしたい方向性を見失うことなく、より良い運営のあり方を引き続き考えたいと思います。

スタッフ研修では、社会力のケース検討を全スタッフで一年かけて行いました。幼児から成人までのケースを活動拠点を越えて共有し、それぞれの成長段階での支援のあり方を検討することができ、トータルサポートの視点をより深めることにつながったと感じています。

1-1 各種運営会議

1-1-1 運営に関する会議

- 1-1-1-1 通常総会 6月に開催
- 1-1-1-2 顧問監事会 7月・2月に開催
- 1-1-1-3 理事会 5月・9月・12月・3月に開催
- 1-1-1-4 運営委員会 月1回
- 1-1-1-5 業務セクション会議 月2回
- 1-1-1-6 プログラム検討委員会 年度後半に実施し総括と来年度計画立案
- 1-1-1-7 こども発達支援センター運営委員会 7月・2月に開催
- 1-1-1-8 夢づくり未来会議2020 月1回
- 1-1-1-9 所長会議 定例月1回のほか議題に応じて実施
- 1-1-1-10 ディレクター会議 月1回

1-1-2 プログラム実施に関する会議

- 1-1-2-1 コミュニティスペース事業に関わるプログラム会議 月2回以上
- 1-1-2-2 まちづくり・ボランティア育成事業に関わるプロジェクト会議 月2回

1-2 活動支援プログラム

1-2-1 Hull Fan	664,000 円	152口
1-2-2 一般寄付	405,050 円	
1-2-3 その他助成金等		
イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン	22,200 円	
尾崎基金	29,890 円	
合人社財団	2,000,000 円	
ひろしまNPOセンター NPOサポート倶楽部	150,000 円	

1-3 広報プログラム

- 1-3-1 WEBによる情報発信
- 1-3-2 広報紙「うるとらのほし」年2回発行

1-4 研修

- 1-4-1 新人スタッフ研修 0回
 新任相談として個別で定期的に実施しました。

- 1-4-2 スタッフ研修 23 回
 虐待防止について ひとは福社会 寺尾文尚先生講師
 社会力についてのケースカンファレンス
 など

- 1-4-3 地域の保護者、事業所を対象とした公開研修 0回
 今年度はコロナのため開催ができませんでした。

- 1-4-4 他団体主催セミナー(講座)への参加
 今年度はオンライン形態での研修が多く、参加しやすいメリットもありました。

広島県主催「相談支援従事者初任者研修」
日本発達連盟主催「オンラインセミナー」
翠星会主催「発達障害医療ネットワーク構築のための支援者研修会」
全国児童発達支援協議会主催「次世代人を育む研修会」など

2.コミュニティスペースプログラム

2-1 こども発達支援センター =子どもたちの育ちの支援に関わる事業

2-1-1 児童発達支援事業(ひよこ組) =児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：31,845,546円】

今年度はコロナ禍での運営となり、緊急事態宣言時には、グループごとに通所曜日を設定した短時間の活動を行い、オンラインでのプログラム配信や保護者の相談対応、家庭訪問なども実施しました。6月以降は短縮日課で、常時換気、手洗い・消毒の徹底などの感染対策を行い、給食時は直接対面での食事や介助は避けるなどの工夫もしながら活動しました。また、密を避けるため遊戯室も教室として使用し、終日発達課題に応じた固定メンバーで4部屋4グループに分かれて活動しました。行事も規模の縮小や内容の工夫などをしながら可能な範囲で実施しました。一年間従来とは異なるスタイルでの活動になりましたが、子どもたちにはいつも一緒に過ごす友達への愛着や関わりの深まりといった成長が見られ、スタッフとしても一人一人の子どもをより丁寧に見つめ、関わり、成長につなげることができたと感じています。

保護者支援では、オンラインでの参観、懇談や行事の様子配信を行いました。特に、初の試みとして行ったオンライン参観は子どもたちの日常の様子やスタッフの関わりを見ていただく機会となり、参加率も高く好評でした。しかし、従来の直接的な関わりや交流を求める声、例年通りのプログラム実施を望む声も多く聞かれ、一部の方にとってはオンライン企画への参加のしづらさもあったと感じています。また、感染対策で日常的な施設内への保護者の出入りを制限したため、保護者同士やスタッフと気軽に話すことのできる時間が減りました。日々の活動の様子を写真入りで定期的に伝えるなど様々な工夫は行いましたが、心で繋がりがあうことのできる機会、学びの機会を作ることは十分できなかつたため、次年度の課題としたいと思います。

なお、低年齢からの専門的な発達支援へのニーズの高まりを受け、次年度通所希望児向けに土曜日限定の受け入れを行いました。契約者数は多くなかったものの、週1回の通所であっても利用された保護者にとっては子どもの成長を感じることができる有意義な場となりました。発達支援の必要性を感じながらもそういった機会のない低年齢児を対象に、私たちとしてどのような初期支援を行っていいのか、引き続き検討していきたいと思えます。



事業目的	2歳から就学前までの発達に支援の必要な子ども達を対象とし、児童発達支援ガイドラインに基づき、生活や遊びの支援を行うことを通して、基本的な生活習慣の獲得や自立、人・集団に対しての愛着心を育むこと、毎日をいきいきと過ごしていくための支援を行います。		
実施日時	通年	活動日	245日
実施場所	こども発達支援センター		
登録数	30名 ※3月31日現在	利用人数	子ども のべ 5.389 名 ※3月31日現在
実施内容	<p>児童発達支援（ひよこ組）</p> <p>ひゅーるぼん独自の「安心感を基盤とした交流感・有能感・自己決定感の醸成」を基盤として、児童発達支援ガイドラインに基づく支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度はコロナ感染拡大状況にあわせて、活動時間の短縮や通所曜日を設定するなどして活動を行ないました。 ○ 季節や文化を大切にしたりした行事を実施しました。 こいのぼり製作、いもの苗植え、水遊び、七夕製作、年長児夕涼み会 ひゅーるぼん発表会、芋掘り、冬のお楽しみ会、嘱託医健康診断、お正月あそび、節分、ひなまつり製作、すだちの会 など 毎月：身体測定を実施 ○ 発達支援計画提示・中間懇談・まとめ個別懇談、および必要に応じて個人懇談を実施しました。 ○ 保護者向けプログラムを実施しました。 Zoomによる保護者茶話会、Zoom参観・懇談 など ○ 2週間に1回～月1回「ひよこだより」を発行しました。 		



2-1-2 放課後等デイサービス事業（きっず組）＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：16,878,367円】

コロナ禍の中で、4月下旬から5月にかけて活動形態を変更し、学校が休校になった子どもたちとオンラインでのやりとりや電話連絡、必要に応じて家庭訪問などを行ってきました。今年度、内部異動で大幅に変更になったスタッフとのつながりを深めていくために、本人の気持ちに寄り添うことを大切に関わりを持つようにしました。本人の思いを丁寧に聞く時間をとったり、頑張れたことやちょっとしたことでもしっかり褒めるようにしたり、なるべく一人一人としっかり関わる時間をとったりするなどして、スタッフとの気持ちのつながりを深めるように努めてきました。

例年行っていた「クッキング」「祭り」「キャンプ」「外出」など、ほとんどの行事ができませんでした。その中で、施設内でできること、密にならないこと、子どもたちの気持ちが発散できること、楽しめることなどを高学年以上の利用児童が中心に企画を考え、「お楽しみ会」「ハロウィンパーティー」など実施することができました。それをきっかけに、きっず組全体がより一層、つながりが深まったように感じています。日常の活動内容については、固定化しないように、子どもたちの好きな粘土や工作、運動などを取り入れていきながら活動の幅を広げ、子どもたちの豊かな経験につなげていけるようにしました。その他、中学3年生の進路相談を行ったり、恒例の運動会の代替として実施した「ひゅーるぽん発表会」に向けて、毎日のように子どもたちと気持ちを通わせながらダンスや歌の練習をするなどしました。

今年度は新規職員として作業療法士が加わったことで、正しい姿勢保持のための手作りの椅子の作成や、箸の持ち方の支援を個別に行うなど、子どもたちに対する支援の幅が広がってきました。

また、相談支援専門員と連携して、子どもたちの見学の対応や、他事業所との連携を行ってきました。学校とは、不登校児の出席日数のやり取りや電話で情報共有をしていながら、子どもたちへのよりよい支援につなげています。ただ、連携が十分にとれていない学校もあるため今後も積極的にアプローチしていながら、連携を深めていけるように努めていきたいと思っています。

保護者支援は、年3回の個人懇談に加え送迎時や電話連絡等で子どもの様子について情報共有するよう努めました。また、Zoom配信を利用して活動内容を見ていただいたり、茶話会なども開催しましたが1回しか開催できず、また参加者も数人程度で、十分な支援につなげることができませんでした。来年度に向けて、工夫して対応していくように考えていきたいと思っています。

事業目的	障がいのある子ども,不登校の子どもたちに対して、子どもの思いや願いをくみ取り、大切に育む事を活動の基本とし、安心感を基盤に人や社会とつながって、いきいきと自己の力を発揮していけるよう育ちの支援を行います。		
実施日時	通年	活動日	245日
実施場所	こども発達支援センター		
登録数	きッズ組 放課後デイサービス 27名 その他利用人数 5名 ※3月31日現在	利用人数	子ども のべ2.941名 ※3月31日現在
実施内容	<p>放課後等デイサービス事業（きッズ組） 6歳～18歳までの不登校及び障がいのある子どもたちを対象として、育ちの支援を行いました。 水曜日を除く、月～金曜日…13:00～17:30 土曜日…9:15～15:30 夏休みなどの長期休暇中の平日…9:15～15:30 ※このプログラムの一部は児童福祉法に基づく放課後等デイサービス事業として実施。 火曜日を除く平日の10:30～13:00は自主事業のフリースペースとして実施。</p> <p>○ 今年度はコロナ感染拡大状況にあわせて、上記の活動時間の短縮や通所曜日を設定するなどして活動を行ないました。</p> <p>○ 年間を通じ、季節プログラムや子どもたちの生活経験を豊かにするプログラムを実施。ただし、コロナ禍の中で活動が制限され、年度当初に予定していた全ての行事を実施することができませんでした。</p> <p>8月…夏のお楽しみ会 10月…ハロウィンパーティー 11月…ひゅーるぽん大発表会（3拠点合同） 12月…焼き芋会（3拠点合同）、冬のお楽しみ会 2月…お楽しみプログラム(スポーツ大会)、Zoom参観、保護者茶話会 3月…スケート、お別れ会 ※その他、誕生日会を実施</p> <p>○ 個別支援計画提示・まとめ個別懇談、および必要に応じて個人懇談を実施 ○ 保護者向けプログラムを実施（活動参観、茶話会）</p>		



2-1-3 保育所等訪問支援事業 = 児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

【事業費：54,218円】

今年度はこれまで以上にこの事業を希望する保護者が多くおられました。しかし保護者には認知されてきているにもかかわらず、すべての幼稚園等にはこの事業が周知されているとは言えず事業をためらう園もありました。また、コロナ感染拡大防止のために外部の受入制限をすることもありニーズ通りに進めることが難しい1年でした。

事業目的	保育所等において、発達に支援が必要な子どもが他の子どもとの集団生活に適應することができるよう適切で効果的な専門的支援を行います。
実施日時	通年
実施場所	保育所等
実施内容	保護者からは7件の依頼がありましたが、実施件数は1件でした。 保護者が通園先に事業の説明をしやすいようなツールの作成を検討しています。

2-1-4 障害児相談支援事業 = 児童福祉法に規定する障害児地域支援事業

障害児指定特定相談支援事業 = 障害者総合支援法に規定する事業

【事業費：4,252,021円】

今年度も、保護者等からの子どもの育ちに関する相談、福祉サービスの利用にかかる相談を受け、発達支援についてともに考えてきました。コロナ禍で自宅で過ごすことが増えたことで、閉塞感やストレスを感じやすい状況が続いていると思われる子どもや家庭もありました。モニタリングに際し、集団での活動場面や家庭での生活等、実際に訪問して観察することが減った一方で、生活に心配のあるケースなどではモニタリング期間にかかわらず頻回に連絡を取り、状況を把握することに努めました。

計画相談支援に係る報酬が少なく事業の運営が成り立たないため、相談支援専門員や事業所がなかなか増えず、利用を希望する人に対応できない現状や、一人が担当する人数が多くなりより丁寧な支援が難しいなど、地域の相談支援事業全体の課題があります。

事業目的	地域の発達に支援が必要な子どもが自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう相談支援を行います。
実施日時	通年
実施場所	ひゅーるぽん、各家庭、学校等
担当件数	55ケース
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害児支援利用計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児支援利用計画の作成(55件) ・ サービス担当者会議の実施とモニタリング(67件) <p>コロナウイルス感染拡大防止の観点から、訪問や支援者会議等の人との接触機会を可能な範囲で減らすようにし、電話やWEB等の代替の方法で実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者自立支援協議会安佐南地域部会 <ul style="list-style-type: none"> 区福祉課、社会福祉協議会と区内の相談支援事業所や子育てにかかわる機関、当事者で構成される隔月の部会に参加しました。今年度は感染症拡大防止のため、オンラインでの会議も取り入れました。 ・ 相談部会への参加（3回） ・ こども部会への参加（2回）

2-1-5 広島市療育支援施設事業 =障害総合支援法に規定する事業

【事業費：4,814,202円】

「初期支援」として今年度は100件を超える子育ての心配ごとや発達についての相談に対応してきました。ひゅーるぽんが「地域の子育て支援センター」としての役割を担っていることが周知されてきたこととあわせて、今年度はコロナの外出自粛でしんどさを抱える親子が多かったことが相談件数の増加につながっていると感じています。この相談件数のうち80%が、未診断や障害福祉サービス利用にはつながっていない子どもの相談で、この「療育支援施設事業」の対象となっています。

子育てサロンなど集団での支援は休止や定員の縮小を行わざるを得ませんでした。個別相談や家庭訪問、メールのやりとりをしながら、親子が家庭で孤立することをできるだけ防ぐようにしました。ケースによっては相談を受けたその日の午後には家庭訪問で対応するなどきめ細やかな対応をしてきました。

今後も地域の中で孤立することなく子育てができるネットワークを、子育て支援の他団体や保健センターとの連携のもと広げていきたいと考えています。

事業目的	広島市より委託を受け、障害児等の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図り、地域の発達に支援が必要な子どもたちの福祉の向上を図ります。
実施日時	通年
実施場所	こども発達支援センター、オープンスペースKUSUKUSU祇園・佐東など
参加人数	132組の親子の相談に対応しました。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在宅支援訪問療育指導事業 家庭訪問 のべ19件 ○ 在宅支援外来療育指導事業 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンでの集団支援 のべ147件（休止や人数制限のため昨年度より件数は減少） ・個別相談（保護者の悩み こどもへの具体的ななかかわりかたの相談） のべ171件（事業対象はこのうち97件） ○ 施設支援一般指導事業 のべ8件（事業対象はこのうち5件） ○ 他機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人e子育てセンター KUSUKUSU 祇園・佐東での発達相談 ・NPO 法人ママぼっけ・公民館主催の親子遊びに講師参加（2回） ・安佐南保健センターと連携し合同での家庭訪問など



2-1-6 その他 発達支援センター自主事業 =自主事業

【事業費：449円】

事業目的	こども発達支援センターとしての専門機能をいかし、地域で発達に支援が必要な子どもやその家族への相談、他機関との連携を行い、地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たします。
実施日時	通年
実施場所	こども発達支援センター
対象者	親子、通所児保護者、地域の事業所、学生Voなど
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てサロンの開催 年間21回 コロナ感染拡大防止のためオープンではなく人数制限をして月2回の実施を月4回に増やして2グループにわけて実施しました。また感染拡大の時期は休止としました。 ○ 児童発達支援退園後のアフターフォロー保護者支援事業 「こっこくらぶ」ひよこ組を退園した保護者 「こけこっこくらぶ」ひよこ組を卒園した1年生保護者 今年度はメールで近況報告を確認するにとどまりました。 ○ こども発達支援事業所連絡会の事務局 安佐南区内の児童発達支援・放課後等デイサービスの事業所連絡会の事務局を務めました。コロナ渦での具体的な取り組み、学校連携などの情報共有を中心にオンラインで3回実施しました。 ○ 福祉施設として実習生等の受け入れ 保育士・音楽療法・社会福祉士実習生の受け入れを実施しました。

2-2 コミュニティほっとスペースぽんぽん（=就労継続支援B型事業所）

=障がいのある人等をはじめとする成人の地域生活ならびに社会参画支援に関わる事業

【事業費：14,697,417円】

通所者一人ひとりが人や社会とつながる喜びを感じながら、いきいきと楽しく豊かに生きていくことを目標に、支援を行ってきました。その中で、今年度は、私たちのめざす「就労継続支援B型事業所」の姿を具体的に示すことを目標にして取り組みを始めました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大や感染防止対策、緊急事態宣言下の事業業態変更など、想像し得なかった事態の対応に追われ、活動の維持継続が主にならざる得ない年になりました。そういつた中、目指す姿と事業内容の整合性について考えたり、自主製品の販売形態の限界を感じたり、新しい事業内容の構築の必要性などを痛感するなど多くの課題に直面しました。しかし、厳しい状況の中でも、外部の支援者との関係がより深まったり、新たな出会いによる繋がりが生まれたことは大きな財産となっています。

新しい生活様式への移行を大きく唱えられる中で、「障がいのある人が、いきいきと社会の中で自分らしさを発揮して生きていくこと」とは、どういうことなのか、常に考えてきました。その姿の具体的なイメージを持つことが、私たちの目指す成人期の支援像（就労継続B型支援事業）と取り組みの方法（手段）を一致させていくために必要だと気づきました。次年度は、通所される方とともに動きながら、具体的な生き方の姿を模索していきたいと思えます。

また、通所される人・家族との繋がりの重要性を感じ、コミュニケーションをとる努力を行いました。特に非常事態宣言下では、オンラインの活用、電話連絡、家庭訪問など積極的な関わりを持てる時間となり、私たちの目指す成人期の支援像の一つのヒントを得たように感じました。またグループホームの見学を行い、家族・本人ともに、「将来にむけて」考える機会をつくりました。

事業目的	18歳以上の障がいのある人の就労、社会参画ならびに豊かな地域生活の支援を行うことを通して、人や社会とつながる喜びを感じながらいきいきと豊かに生きていくことを支援します。		
実施日時	通年		
実施場所	コミュニティほっとスペース ぽんぽん		
登録数	14名 ※2021年3月31日現在	活動日数	245日
利用人数	利用者 のべ 2.817名 ※3月31日現在	ボランティア のべ 5名	
実施内容	<p>(1)人や社会とつながっていきいきと豊かに生きる社会生活支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・アート製品づくり・販売 主な販売先： <ul style="list-style-type: none"> 出張販売（ダイハツ西風新都店5周年記念マルシェ） 委託販売（ふれ愛プラザ・広島県立美術館・やみつきcafe×つぼやきキートンカレー・ネット販売konkon） アートレンタル（おりづる歯科・ダイハツ広島販売株式会社<6店舗7ヶ所>・やみつきcafe×つぼやきキートンカレー・積水ハウスシャームゾン広島支店） アート製品・その他商品のカタログ受注販売事業（年2回）。オーダーアートの受注。外部からのデザインの2次利用の対応。 ・下請け作業 <ul style="list-style-type: none"> リサイクル品クリーニングラッピング作業、和菓子ラッピング作業、DMの発送作業、木工製品のやすりがけ作業。 ○ 生きがいの支援 <ul style="list-style-type: none"> アート活動（絵画や陶芸）での自己表現。作品の発表の場づくり、アート・ルネッサンス2021応募・出品（WEB開催）。広島県アートサポートセンター主催オンラインワークショップへの参加（美術、演劇）。演劇ワークショップへの参加支援。レクリエーションの実施（体育館の利用）。 ○ 日常生活の支援 <ul style="list-style-type: none"> 日常生活能力・社会生活能力の向上のために、生活面の指導・支援・個別目標を明確にした個別支援計画の作成。本人や家族との個別懇談の実施。医療・関係機関との連携。医療機関での健康診断の実施。グループホーム見学の実施。 <p>(2)あたたかなまちづくりの拠点となる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部の依頼に応じた作品展示。 <ul style="list-style-type: none"> 9月 ダイハツ広島販売西風新都店イベントでの作品展示 12月 廿日市美術ギャラリー 木工製品クリスマスイベントでの展示 <p>(3)利用相談や地域生活に関わる相談（2名）、利用希望者の見学・体験（6名）。</p>		

3.まちづくり・コミュニティボランティア育成 プログラム

3-1 まちづくり =まちづくりに関わる事業

3-1-1 アートによるまちづくりプログラム

3-1-1-1 広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2021

=まちづくりに関わる事業

【事業費：988,234円】

アート・ルネッサンスは今年度も引き続き、広島市とアートサポーターとの協働で「広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2021」として開催しました。今回の作品展は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは形を変え、WEBギャラリーでの展示としました。準備段階から、事務局で開催の是非について何度も検討しましたが、日々脈々と続いているアーティストの方々の表現の場をなんとかして作りたい、そして皆さんに安心して心から作品展を楽しんでいただきたいという思いからオンラインでの作品展を開催することを決めました。応募者の皆様には、応募可能な作品数を1人1点のみにさせていただきましたが、私たちの予想をはるかに上回る576点もの応募をいただきました。コロナ禍であっても、表現すること続けられたアーティスト、またその表現に寄り添い、そばで支えてこられたアートサポーターの方々がこんなにも多くいらっしゃることを、心強く、嬉しく思いました。WEBギャラリーだからこそ展示ができたような、日常に溶け込んだアート作品があったり、期間中、オンラインでアーティストやサポーターによる作品解説や日常の作成風景の配信をしたりするなどこれまでになかった発信方法やつながりづくりができたと感じています。また、開催を応援してくださる協賛企業での作品展示は、密を避けながら実際に作品に触れていただける機会となりました。今後も新たな可能性を探りながら、私たちが変わらず大切にしてきた、障がいのある人の自己表現を大切に自由な表現する場があることや、それをサポートする人の共感の輪を広げながら共に高まっていくことを考えていきたいと思えます。

事業目的	<ul style="list-style-type: none">○ 障がいのある人のアートが持つ魅力、価値を広く社会に広めていきます。○ アーティストと社会がつながる社会参画の場とします。○ 現場で制作するアーティスト、サポーター同士のつながりを広げます。○ アーティスト、サポーターの表現活動の広がり、高まりを支援します。
実施日時	2021年2月1日(月)～3月14日(日)
実施場所	ひゅーるぽんホームページ内 特設ページにてWEB上での作品公開
対象者	WEBギャラリー 応募者・団体576名(団体) アクセス数 1931件

<p>実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ WEBギャラリーで公開する作品の公募を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> ・公募期間 2020年10/22～12/12 ・受付方法 インターネットの応募フォームと郵送の2つの方法で実施 ・1人一点のみの応募。審査なしで、全応募作品をWEBギャラリーで公開 ・総応募 576点 展示点数 574点(著作権に関わる取り下げ2点) ○ 公開サイトには以下のような工夫をし、見ていただきやすいようにしました。 <ul style="list-style-type: none"> ・インデックスページ(平面8ページ、立体3ページ、こども1ページ)から作品をクリックすると作品全体と、拡大機能で詳細が見られるようにした。 ・各ページにコメント欄を用意し、作品や作品展への感想を書いてもらえるようにした。 ○ 例年会場で行っている作品解説に代わり、以下のアーティストの方々にオンラインでの作品解説をして頂きました。 <ul style="list-style-type: none"> ・2/2 カミジョウミカさん 参加者7人 ・2/4 浅野春香さん 参加者5人 ・2/5 ぽんぽんのみなさん 参加者9人 ・2/13 オンライン作品解説 浅野春香さん、三原特別支援学校、井上和大さん、ぽんぽん、審査員3名 参加者13名 ・2/16 鬼頭純平さん 参加者9名 ・2/25 なないろ作業所、若狭淳人さん 参加者9名となないろ作業所の皆さん ○ 実際の作品にも触れていただきたいとの思いから、以下の企業様にご協力いただき作品を展示させていただきました。 <ul style="list-style-type: none"> ・積水ハウス 2/12-3/12 3作品 ・廣文館(フジグラン広島) 2/13-2/28 19作品 ・バッケンモーツアルト 2/19-3/19 7作品 ・広島銀行古市支店 2/22-3/19 2作品 ・ぶどうの木 3/2-3/30 7作品 <p>また、今年も多く企業様に協賛をいただきました。(特別協賛11社/協賛2社)</p> ○ 広島市とアートサポーターと協働で実施し、サポーターの方には関連企画の広報や企業への声かけの協力を呼びかけました。 ○ ポスターやDMなどの印刷物を用いて、応募者や関係各所へ広報を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ひゅーるぽん、広島市のホームページ ・NHK広島放送 広島県のニュース (2/5 O.A.) ・中国新聞 取材記事掲載 (2/16日刊) ・中国新聞広告 (2/20日刊) ・SNS 情報発信 ・各作品をレイアウトしたオリジナルチラシの配布(はがきサイズ)
-------------	--

3-1-1-2 幸せProducts. =まちづくりに関わる事業

【事業費：974,594円】

社会の中にアートがある面白さを伝える機会を増やすためアートを取り入れた街中展開に力を入れてきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、これまでの取り組みが継続できない状況下での事業となりました。アート展などもWEB上で開催されるなど、直接作品に触れる機会が減ったように感じます。このような社会情勢の中、作品の世界を直接感じて欲しいという思いと、WEB上でも作品を見て欲しいというアーティストの思いなど様々な思いを感じました。その中では、「ダイハツ広島販売株式会社」の広島県内直営店舗へのアートレンタル事業は、日常的に彼らのアートに出会う機会を作り継続することができました。協力していただいている施設やアーティストの皆さまの努力で、各店舗のスタッフの皆様やお客様には、次の作品を楽しみにしていただいています。しかし、その中で、私たちの思いを伝える取り組みが足りないことも実感しました。作品を観ていただける機会を通してきちんと思いを伝えていくこと、なぜここにこのアートがあるのかということを発信していきたいと思えます。

事業目的	○ 社会の中で障がいのある人のアートの普及と障がいのある人の社会参画を促進します。 ○ アートをまちづくりに活かす取り組みをムーブメントとして高めます。
実施日時	通年
実施場所	ダイハツ広島販売株式会社 各店舗（広島県内） 幸せProducts.事務局内
実施内容	ダイハツ広島販売株式会社直営21店舗(本社含め)へのアートレンタルの窓口となり、協力団体・事業所・個人の方々と連携し、中心になって事業を進めていきました。



3-1-1-3 アートスペース（陶芸・絵画） =まちづくりに関わる事業

【事業費：163,577円】

今年度、アートスペースは感染症予防の観点から、活動をお休みする期間を設けました。絵画は12月よりオンラインを使って再開しました。オンラインで再開した時には、これまでのような相互刺激は得にくい環境ではありましたが、描きたいという意欲の高まりを感じ、描ける機会・環境があることの大切さを実感しました。陶芸は再開後、場所を安佐南区民文化センターに移し創作活動に取り組みました。再開してすぐは、参加者の気持ちに不安定さがあり、創作に対するモチベーションが低下していました。ですが回数を重ねるにつれ、これまでの表情がみられるようになりました。アートスペースは参加者にとって、創作する場だけではなく、心を解放し、気持ちをリセットさせる場であることを感じました。集まっての活動が難しい場合でも、参加者と一緒に悩み考え、工夫をしながら表現できる場を今後もつくっていきたいと思います。

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいのある人のアートを支援するノウハウと資源を活用し、アートに取り組む環境を提供していきます。 ○ 地域へ開かれたアート教室を開催し、制作環境を高めていきます。 ○ アーティストの発掘とアートの社会化を目指していきます。
実施日時	通年
実施場所	コミュニティほっとスペース ぽんぽん
実施内容	<p>(1) アートスペース絵画の開催。毎週火曜日に外部の方を対象に12月～2月は、オンライン、3月は通常実施で、表現の場づくりに取り組みました。</p> <p>(2) アートスペース陶芸の開催。月2回、外部より専門の講師を招き、安佐南区民文化センターにて活動を行いました。12月、1月の自粛期間中はオンラインを活用しクリスマス会やサロンの活動を行いました。</p> <p>(3) 公開ワークショップは、感染予防を考慮し休止しました。</p> <p>(4) HPAR2021に応募。</p>



3-1-1-4 アートサポートセンターひゆるる =まちづくりに関わる事業

【総事業費：8,199,909円】

[内訳:広島県受託費 8,029,493 円/自主事業費 170,416 円]

今年度は、「広島県令和2年度障害者文化芸術活動支援事業」を受託し、広島県アートサポートセンターの運営をしました。

人材育成では、創作現場のスキルアップを目的に支援者・アートサポーターを対象とした4回のオンライン講座を行いました。公募展等の応募作品の中には、著作権侵害にあたるかもしれないものや心配な事例などがあったため、アートに関する権利のオンラインセミナーを行い、サポーターの権利に対する意識の確認をしました。

創作活動支援では、どんな時であってもアーティストが安心して表現活動を続けていく環境を整えること、新しい表現を楽しむこと、新たなサポート方法を考え体験していくことを目的に、オンラインを取り入れた、美術表現のワークショップと演劇のワークショップを行いました。オンラインを取り入れたことで、これまで参加しにくかった遠方の地域の方の参加が増え、支援者からは「移動時間が不要なので参加しやすかった」「周りに人がいない分、集中しやすかった」など、プラスの意見がありました。しかし、オンラインの活用は便利である反面、障がいのある方、家族だけでの参加が難しく、事業所、支援員、サポーターなどの人的サポートが必要な方が多いことがわかりました。

また、感染症予防対策により施設・事業所の職員の勤務体制の変更や行動を自粛することが多くなり、ワークショップ形式では参加しにくく学ぶ機会が減ってしまう状況を踏まえ、美術表現の制作方法や過程を学べる映像ライブラリーを制作しYouTubeで限定配信しました。今後、DVDなどの貸し出しも行っていく予定です。

相談支援では、新規の相談よりもこれまで繋がりのある施設・事業所からの相談が多く「創作に関する相談」「作品の販売価格の相談」「タイトルについての相談」などがあり、必要に応じて、専門家である協力委員からアドバイスをいただきました。また、障がいのある方から「表現する場所が欲しい」「コロナが早く落ち着いて欲しい」「演劇がしたい」など、自分の気持ちを伝えられる相談が増えました。その他、広島県内の障がいのある方・サポートされている方を対象に美術鑑賞に関するアンケート調査を行い、その後、広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンターが協働で、新しい鑑賞のあり方を考えることを目的に、障がいのある方、サポートしている方を対象にした「写真・動画撮影のセミナー&ワークショップを実施しました。

今後も表現することを大切に、サポートする側の連携につながる取り組み、サポーターのスキルアップを目指した人材育成をし、表現を支える環境が整うように取り組んでいきたいと思えます。

3-1-1-4-1 広島県受託事業詳細 [令和2年度広島県障害者文化芸術活動支援事業]

【事業費：8,029,493円】

事業目的	<p>○障がい者文化芸術活動に関わる、活動基盤の充実・強化。 ○アートに関する、相談窓口。 ○今後の障がい者アートのあり方を考え、目標を共有する。</p>
実施日時	2020年4月1日～2021年3月31日
実施場所	<p>オンライン：NPO法人ひゅーるぼん 広島市心身障害者福祉センター、広島市社会福祉協議会、合人社ウエ デイひと・まちプラザ、ギャラリーミヤウチ、広島市中央公民館</p>
実施内容	<p>(1)広島県アートサポートセンターの運営 広島県「令和2年度障害者文化芸術活動事業」を受託し実施。アドバイザー(相談員)2名(内1名は兼務)、映像撮影、編集のアルバイトを配置。</p> <p>(2)障がい者アートに関する普及・啓発と情報発信 関係団体やイベント・セミナーにてパンフレットを配布。ホームページ、Facebookなどで情報を発信。 年間発信数：ホームページ199件、Facebook 199件 アクセス数：ホームページ 50,062件、Facebook 8,694件 合計 58,756件</p> <p>(3)障がい者アートに関する相談窓口 電話、ホームページ、訪問。講座を通して相談を受付、対応。(新規相談数：51件)</p> <p>(4)人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「アートサポーターのためのスキルアップオンライン講座」実施回数：4回 講座1「障がいのある人の表現活動で大切にしたいこと」講師：鳥取大学地域学部教授 川井田 祥子 氏 開催日時：10月16日(金)13:00-15:00 参加者：11名 講座2「表現を感じる」講師：美術家 松尾 真由美 氏 開催日時：10月28日(水)15:00-17:00 参加者：11名 講座3「展覧会のつくり方」講師：鞆の津ミュージアム 学芸員 津口 在五 氏 開催日時：11月17日(火)13:00-15:00 参加者：11名 講座4「作品の見せ方と展示方法」アートギャラリーミヤウチ学芸員 今井みはる 氏 開催日時：11月25日(水)13:00-15:00 参加者：12名 ●「写真・動画づくりセミナー&ワークショップ」 開催日時：3月14日(日)13:00-17:00 会場：広島県立美術館 講師：広島大学大学院人間社会科学科教職開発専攻 准教授 池田 吏志 氏 広島県立美術館 学芸課長 福田 浩子 氏・学芸員 森 万由子 氏、映像クリエイター 金山 翔氏 他2名 参加者：10名 ●「アートに関する権利保護のオンライン勉強会」講師：弁護士 三浦 友美 氏 開催日時：3月20日(日)10:30-11:30 ※講師の体調不良のため中止しました。 <p>(5)創作活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●美術表現ライブラリーの制作 ●美術表現オンラインワークショップ「風景をつくろう」実施回数：2回 開催日時：11月7日(土)13:00-14:30、11月8日(日)10:00-11:30 講師：美術家 粕谷 周司 氏 参加者：障がいのある方 12名、支援者・その他 18名 計 30名 ●ダンスワークショップ 実施回数：3回 開催日時：11月13日(金)、20日(金)、27日(金)、16:30-18:00 講師：荒川 香代子 氏 参加者：障がいのある方 6名、支援者・その他 6名 計 12名 ●演劇オンラインワークショップ 開催日時：3月20日(土・祝) 14:00～16:30 ファシリテーター：坂田 光平 氏 サポート：舞台芸術制作室無色透明 参加者：ワークショップコース 14名 YouTubeコース 7名 ●指導者派遣 講師派遣2回 <p>(6)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学との連携事業鑑賞支援に関する基礎調査研究 アンケート調査の実施 講師：広島大学教育学部准教授 池田吏志氏

3-1-1-4-2 アートサポートセンターひゆるる自主事業

(文化芸術による共生社会の推進を含む)

【事業費：170,416円】

新しい生活様式を心がけ、感染予防に配慮し、他機関の演劇事業のサポートや相談対応を行いました。

「全国の障害福祉サービス事業所等における文化芸術活動の実態に関する基礎調査のための研究のアンケート調査」で広島県の障がいのある方・事業所の回答にアート相談機関として「ひゆるるぼん」と記載が多くあったと報告を受けました。今後も、他機関、他施設などと悩み、考える、障がいのある方のアートの発展に取り組んでいきたいと思ひます。

事業目的	<ul style="list-style-type: none">○ アートによるまちづくり事業と協働し、社会への普及啓発を行います。○ 障がい者アートの普及・発展に向けた取り組みを行います。○ 障がい者アートを取り巻く社会情勢を踏まえ、新しい視点を提案します。
実施日時	通年
実施場所	広島市内
実施内容	<ul style="list-style-type: none">○ 他機関、他施設などと協働した取り組みの実施。○ アート活動に関する、相談や協働の窓口。○ 必要に応じ、各施設・団体との協働で事業を実施。○ アートスペース事業のサポート。○ 障がいのある人とともに創る演劇事業の協働・サポート。



(美術表現オンラインワークショップより)

3-1-2 地域・社会啓発つながりづくりプログラム

-3 地域協力プログラム

-4 地域交流プログラム 地域食堂「みんなおいでや～」

＝まちづくりに関わる事業

【事業費：0円】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年開催している「まつり」等の交流イベントや地域食堂「みんなおいでや」、公民館まつり等の地域行事の開催もありませんでした。しかし、9月に主催した「平和を奏でるピアノの夕べ」では、地域の方にもおいでいただき、平和に想いを馳せながら心がつながり合う時間を過ごすことができました。来年度も引き続き、私たちの持つ強みや機能を生かしながら、人とのつながりをつくり深め合う場づくりを進めていきたいと思えます。

事業目的	啓発活動とあわせて、地域住民やボランティアとつながりをつくったり、深めたりしていきながら、「ともに生きていく」地域づくりを目指します。
実施場所	NPO法人ひゅーるぼん
対象者	地域の人、通所児・者、スタッフ、保護者など
実施内容	コロナでもつながろうプロジェクト「平和を奏でるピアノの夕べ」 2020年9月18日（土）17時～18時 参加者：約30人 内容：被爆ピアノとヴィオラのコンサート 感染拡大防止のため園庭への入場制限をするとともに、YouTube生配信を並行して実施しました。



3-2 ボランティア育成プログラム

＝ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関する事業

3-2-1 ボランティアセンタープログラム

【事業費：4,868円】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、ボランティアの受け入れを停止せざるを得ませんでした。いつも交流のある学校から問い合わせが何件かありましたが、福祉施設故の感染予防の厳しさをお伝えし、その現状やボランティア受け入れ再開に向けたスタッフの思いを手紙にし、会報と合わせて区内の学校に送付しました。

その中でも、昨年度まで毎週のようにボランティアに来てくれていた学生が子どもたちにクリスマスプレゼントを渡したいと来てくれました。降園時に園庭でこどもたちと東の間の再会をしプレゼントを渡していただきました。会えていなくてもこどもたちのことを気にかけてくれていた学生の姿に、1日も早く一緒に遊べる日が来ることを願わずにはられませんでした。また、コロナ禍におけるひゅーるぽんの活動状況をボランティアに来てくださっていた人にメールで伝える取り組みも行いました。

受け入れが可能となる時までこのように情報を発信しながら繋がりを持ち続けていきたいと思っています。

事業目的	○ ボランティアに関心のある人々を巻き込んでいながら、学び・学び合いの場を提供していきます。 ○ 私たちが展開する様々なプログラムに参加することを通じて、ボランティア・市民活動について相互に学び合う場を作ります。
実施日時	通年ですが今年度は2月までは受け入れを休止しました。
実施場所	NPO法人ひゅーるぽん
対象者	学生、企業など
実施内容	(1)メールで活動状況や近況報告 (2)園庭にてクリスマスプレゼントのお渡し会

3-2-2 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議プログラム

＝緊急・災害時の支援に関わる事業

【事業費：0円】

事業目的	「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」構成団体として、協働しながら災害に備え、災害時にはその対応にあたります。
実施日時	通年
実施内容	広島市では調整会議が主体となってボランティアセンターを立ち上げるような大きな災害は幸いにして発生しなかったため、以下の会議が開催された。 6月24日 令和2年度第1回会議（広島市役所） ※コロナウイルス感染予防対策のため欠席

3-2-3 講師・委員派遣 ＝その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：0円】

（講師等）

- 5/27 比治山大学「ボランティアワーク」講師（遠隔授業）
- 10/9 広島国際大学「施設における子どもの生活と保育士の役割」講師（遠隔授業）
- 9/14・9/28 安佐南区子育て交流会「感染対策のなかでも楽しめる親子あそび」講師
- 11/12 広島文化学園大学音楽学科「児童発達支援センターについて」講師
- 12/4 比治山大学「障がいを持つ子どもの支援の実際と療育活動」講師
- 2/14 文部科学省「障害者の生涯学習セミナー」パネリスト

文教大学初等教育学科山廣千晶さん卒業論文「不登校児童生徒に対する学校以外の場での学習等の支援」研究協力

（委員）

- 広島市社会福祉審議会全体会委員
- 広島市社会福祉審議会子ども・子育て専門部会委員
- 広島市社会福祉審議会高齢福祉専門部会委員
- 広島市地域福祉活動推進基金助成事業審査委員
- 広島市社会福祉協議会理事
- 広島市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員長
- 広島市社会福祉協議会基金管理運営委員会委員長
- 広島市社会福祉協議会地域福祉総合企画委員会委員

広島市安佐南区社会福祉協議会評議員

公益財団法人コミュニティ未来創造基金評議員

広島県あいサポートアート展審査員

など

3-2-4 職場体験・実習生等の受け入れ =その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

【事業費：0円】

(1)職場体験	コロナ禍のため依頼なし		
(2)実習	広島文化学園大学	音楽療法実習①	8名（3日）
		音楽療法実習②	8名（4日）
	広島国際大学	保育士実習	1名（12日）
	広島国際大学	社会福祉士実習	1名（13日）
(3)インターンシップ	コロナ禍のため依頼なし		
(4)研修受入	アジア保健研修所	インターン広島研修	中止

令和2年度 活動実績

1.年間活動時間

【内訳】

①運営に係わるプログラム	会議日	128 時間	(昨年度117時間)
②コミュニティスペースプログラム	年間245日		
③まちづくりプログラム		206時間	(昨年度2,401時間)
④ボランティア育成プログラム		27時間	(昨年度167時間)

2.ボランティア年間活動参加のべ人数

23名 (昨年度402名)

■センター	13名	(昨年度212名)
■ぽんぽん	5名	(昨年度 0名)
■まちづくり	5名	(昨年度193名)

3.会員登録数

129 名 (昨年度106名)

■正会員	28名	(昨年度28名)
■賛助会員	101名	(昨年度78名)